



ありたい姿から始める農村RMO



20240821中央研
弘前大学平井太郎

ありたい未来への行き着き方を探る

総合計画・総合戦略
ビジョンと積み上げ



旧学校・空き家などの
再生(管理構想)



移住者・関係人口
との共創(協力隊)



伝統行事の継承
(歴史まちづくり)

持続可能な生業
(農村RMO
・みどりシステム)



何が望ましいか、よりも、
どうしたらありたい未来が、
現場の実践actionから
生み出せるかを研究research
年間50件ほどワークショップ



失われた世代の
みかん農家

食料・農業・農村政策の4本柱と今後の方向性

資料3

- 世界の食料供給の不安定化、急速な人口減少などの環境変化の中で **平時からのすべての国民の食料安全保障を確保するため、「食料・農業・農村政策の新たな展開方向」に基づき、**
- ① 令和6年の通常国会への提出に向けて、食料・農業・農村基本法改正案の法制化に向けた作業を加速化するとともに、
 - ② 基本法の改正方向に合わせ、関係省庁と連携し、**法制度の見直しを含めた施策の具体化を進め、今後、施策の実施に向けた工程表等を策定する。**

<基本法の見直し方向>

<主な施策>

<p>食料 安全保障の 強化</p>	<p>不測時だけでなく、平時からの国民一人一人の食料安全保障の確立</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・食料・農業・農村基本計画を見直し、食料安全保障の状況を平時から評価する新たな仕組みへ転換 ・食料の確保に向けた対策を不測時に政府一体で実行する体制・制度の構築（法制化） ・主食用米から転換し、麦、大豆、加工・業務用野菜、飼料の生産拡大、米粉の利用拡大、水田の畑地化・汎用化、肥料の国産化推進等 ・関係省庁と連携し、食品アクセス問題に対応する仕組みの検討（物流2024年問題への対応や、買い物弱者対策、フードバンク・子ども食堂への寄附の促進等国民一人一人の食料安全保障等） ・適正な価格転嫁を進めるための仕組みの創設（法制化） <p>等</p>
<p>農林水産物 ・食品の 輸出促進</p>	<p>海外市場も視野に入れた農業・食品産業への転換</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・輸出促進法に基づく品目団体の下、食料システム全体での輸出拡大、規制に対応した輸出産地の形成 ・輸出先国における輸出支援プラットフォームの整備（輸出事業者等へのきめ細やかなサポートの実施） ・海外流出防止や競争力強化等に資する知的財産の保護・活用（育成者権管理機関の取組の推進等） <p>等</p>
<p>農林水産業 のグリーン化</p>	<p>環境負荷低減等、新たに持続可能な農業を主流化する考え方の導入</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・みどりの食料システム法に基づき有機農業等の取組を大幅に拡大 ・J-クレジット等の民間資金の活用等により、農業分野で温室効果ガスの排出削減、生物多様性の保全に貢献、フードバンクへの寄附量の開示など食品企業の食品ロス削減に向けた役割の強化 ・生産者と食品事業者等との連携の促進、環境負荷低減の取組の見える化 ・各種支援が環境負荷低減の阻害要因にならないよう配慮することを原則化 <p>等</p>
<p>スマート 農業</p>	<p>農業従事者が減少する中でも、食料供給基盤が維持できるようにするための生産性の高い農業の確立</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・産学官連携によるスマート技術の開発、サービス事業者の育成等によるスマート農業の導入による生産性の高い農業への転換（スマート農業の振興の法制化）、ほ場の大区画化 ・受け皿となる経営体等やそれを経営・技術等でサポートするサービス事業者など、多様な農業人材の育成・確保 ・農業水利施設等の維持管理や中山間地域の農業維持のためのスマート技術の活用と非農業者・団体の受け皿となる農村RMOの育成 <p>等</p>

「食料・農業・農村政策の新たな展開方向」を踏まえ、食料安全保障の強化、環境対応、人口減少への対応の3本柱を中心に、新しい資本主義の下、若者や意欲ある農林水産業者が夢を持って農林水産業に取り組めるような環境整備、元気で豊かな農山漁村の次世代への継承等を実現

総額 2兆2,686億円 (2兆2,683億円)

※ () 内は令和5年度当初予算額

1 食料の安定供給の確保 ~どんな社会環境でも日本の食卓を支えられるようにするための関係者の取組を全力で応援~

<食料の安定供給の確保に向けた構造転換>

- **水田での戦略作物の本作化** 畑地化による高収益作物等の導入・定着、麦・大豆の国産シェア拡大に向けた作付けの団地化、ブロックローテーション、保管施設の整備、商品開発等の取組を支援
水田活用の直接支払交付金等 3,015億円 (3,050億円) 等

2 農業の持続的な発展 ~若者や意欲ある農業者が夢を持って農業に取り組めるような環境を整備~

<多様な農業人材の育成・確保>

- **地域計画の策定に向けた協議や受け皿経営体の確保等の取組への支援** 農地バンクを活用した農地の集約化、農業委員会による農地利用の最適化の推進
地域計画策定推進緊急対策事業 14億円 (8億円) 等
- **新規就農の推進、農業教育機関における有機農業等の教育の充実** 労働力を確保するための環境整備、リ・スキリング機会の提供、農業経営人材の育成を担う組織の体制構築、女性の活躍推進
新規就農者の育成 121億円 (106億円) 等
- 地域の実情に応じた生産体制強化への支援、研修機会の提供等、多様な農業人材の意欲的な取組の推進
持続的生産強化対策事業 150億円の内数 (160億円の内数) 等

3 農村の振興 (農村の活性化) ~元気で豊かな農村を次世代へ継承~

- **農泊地域への支援・6次産業化・農福連携等の農山漁村発イノベーションの推進** **農村RMOの形成** 棚田地域振興や地域づくり人材の育成、中山間地域等における農用地保全を軸とした最適な土地利用の推進
農山漁村振興交付金 84億円 (91億円)
- **侵入防止柵の整備や広域的な柵への再編** 狩猟組織の体制強化など鳥獣被害防止対策の推進とシイ利用の拡大
鳥獣被害防止対策とシイ利用の推進 100億円 (97億円)

「食料・農業・農村政策の新たな展開方向」を踏まえ、食料安全保障の強化、環境対応、人口減少への対応の3本柱を中心に、新しい資本主義の下、若者や意欲ある農林水産業者が夢を持って農林水産業に取り組めるような環境整備、元気で豊かな農山漁村の次世代への継承等を実現

総額 2兆2,686億円 (2兆2,683億円)

※ () 内は令和5年度当初予算額

4 みどりの食料システム戦略による環境負荷低減に向けた取組強化

～SDGsの世界的浸透を踏まえた農業者等のチャレンジを全力で応援～

- 環境負荷低減と高い生産性を両立する新品種・技術の開発 みどりの食料システム戦略実現技術開発・実証事業 30億円 (32億円) 等
- 化学肥料等の生産資材の使用低減などのグリーンな栽培体系への転換と取組を支える事業者の施設整備支援、有機農産物の生産・需要拡大や、環境負荷低減の「見える化」やJ-クレジットを通じた関係者の行動変容の促進、理解醸成 みどりの食料システム戦略推進総合対策 7億円の内数 (7億円の内数) 等
- 地球温暖化防止や生物多様性保全等に効果の高い営農活動の支援 環境保全型農業直接支払交付金 26億円 (27億円)

省全体の補助事業等で最低限行うべき環境負荷低減の取組の義務化（クロスコンプライアンス）を令和6年度から試行実施。

5 多面的機能の発揮 ～食料供給・農業生産活動の前提となる基盤をしっかりと下支え～

- 日本型直接支払による多面的機能の維持・発揮のための共同活動や中山間地域での農業生産活動継続への支援 多面的機能支払交付金 486億円 (487億円) 等

地域計画、畑地転換、水張5年、クロスコンプライアンス、有機農業、給食提供、畦畔草刈、泥上げ、多面、中山間、スマート農業、ドローン、神刈、カルガモくん、ジビエ、農泊、漬物許可、サービス事業体...

さまざまな施策・規制を受けとめ交わす武器として期待される農村RMO
やらされ感でやるよりは、この際地域のありたい姿を実現する機会にしたい！

中国四国

- 島根県（7地区）**
 - ① 和田地区まちづくり推進委員会（浜田市）
 - ② 今福まちづくり委員会（浜田市）
 - ③ 佐田地域づくり協議会（出雲市）
 - ④ 久利・大層地区小さな拠点推進協議会（大田市）
 - ⑤ 池田集落協定運営委員会（大田市）
 - ⑥ 運動と安らぎの里づくり岡山（雲南市）
 - ⑦ 出羽地区運営協議会（邑南町）
- 岡山県（1地区）**
 - ⑧ 吉城紀村協議会（真庭市）
- 広島県（3地区）**
 - ⑨ 石原集落地域振興協議会（三次市）
 - ⑩ 田幸地区町内会連合会（三次市）
 - ⑪ 庄原市山内集落地域振興協議会（庄原市）
- 徳島県（3地区）**
 - ⑫ 加茂谷RMO推進協議会（阿南市）
 - ⑬ 椿町農村RMO運営組織協議会（阿南市）
 - ⑭ 赤松地区農村RMO推進協議会（美波町）
- 愛媛県（1地区）**
 - ⑮ 奥松瀬川地区農村活性化協議会（東温市）
- 高知県（4地区）**
 - ⑯ 本山町農村みらい会議（本山町）
 - ⑰ 明るい柳野を創る会（いの町）
 - ⑱ 集落活動センター「四万川」推進委員会（椿原町）
 - ⑲ （一社）三原村集落活動センターやまびこ（三原村）

九州

- 長崎県（1地区）**
 - ⑳ 根獅子・飯良まちづくり運営協議会（平戸市）
- 熊本県（2地区）**
 - ㉑ 菊鹿さきもり隊（山鹿市）
 - ㉒ くまむら地域再生協議会（球磨村）
- 宮崎県（2地区）**
 - ㉓ 酒谷地区むらおこし推進協議会（日南市）
 - ㉔ 東米良地区1000年協議会（西都市）
- 鹿児島県（2地区）**
 - ㉕ 北山校区コミュニティ協議会（館良市）
 - ㉖ 天城町地域づくり協議会（天城町）

関東

- 長野県（3地区）**
 - ① 戸隠地域づくり協議会（長野市）
 - ② 小谷村農村地域づくり協議会（小谷村）
 - ③ 秋山郷地域づくり協議会（栄村）
- 北陸**
- 新潟県（2地区）**
 - ④ かみさた地域むらづくり協議会（見附市）
 - ⑤ （一社）柳地農業振興会（上越市）
- 富山県（5地区）**
 - ⑥ 黒岩谷KIRARI活性化協議会（富山市）
 - ⑦ 遠川地区まちづくり協議会（氷見市）
 - ⑧ 大銅屋地域づくり協議会（南砺市）
 - ⑨ 釜ヶ淵みらい協議会（立山町）
 - ⑩ 東谷活性化協議会（立山町）
- 石川県（2地区）**
 - ⑪ 能登島地域づくり協議会（七尾市）
 - ⑫ 鉾打ふるさとづくり協議会（七尾市）

近畿

- 滋賀県（2地区）**
 - ⑬ 羽ばたけ鮎河自治振興会（甲賀市）
 - ⑭ 桜谷地域農村RMO推進協議会（日野町）
- 京都府（3地区）**
 - ⑮ 中六人部地区農村RMO事業推進連絡会議（福知山市）
 - ⑯ 宇川連携協議会（京丹後市）
 - ⑰ 与謝地域山村活性化協議会（与謝野町）
- 奈良県（1地区）**
 - ⑱ 葛城山麓地域振興協議会（葛城市）
- 和歌山県（1地区）**
 - ⑲ 秋津野地域づくり協議会（田辺市）

市町村	事業実施主体
北本市	かてまち地域づくり協議会
湯野市	土淵町農村活性化協議会
奥州市	伊手農村農業活性化協議会
〃	星の広場
〃	赤坂まちづくり協議会（坂）
川崎町	はせくら地区活性化推進協議会
加美町	群像地区コミュニティ推進協議会
にかほ市	麓のカラコ協議会
藤野町	ふじさと稲毛地域活性化協議会
三輪町	下野川地域づくり協議会
酒田市	日向地域づくり協議会（坂）
〃	大沢わくわく未来協議会（坂）



- 東北**
 - 岩手県（4地区）**
 - ① たてまち地域づくり協議会（花巻市）
 - ② 土淵町農村活性化協議会（遠野市）
 - ③ 伊手農村農業活性化協議会（奥州市）
 - ④ 星の広場（奥州市）
 - 秋田県（2地区）**
 - ⑤ 麓のカラコ協議会（にかほ市）
 - ⑥ ふじさと稲毛地域活性化協議会（藤沢町）
 - 福島県（1地区）**
 - ⑦ チームさまげネットリょうぜん（伊達市）
 - 東海**
 - 岐阜県（1地区）**
 - ⑧ 加子母むらづくり協議会（中津川市）
 - 愛知県（2地区）**
 - ⑨ 岡崎市下山学区地域づくり協議会（岡崎市）
 - ⑩ しさしまの家運営協議会（豊田市）
 - 三重県（1地区）**
 - ⑪ 勢和農村RMO協議会（多気町）
- : モデル形成支援地区（R4着手）28地区
● : モデル形成支援地区（R5着手）28地区
■ : 都道府県伴走支援（R4着手）7箇所
■ : 都道府県伴走支援（R5着手）6箇所
 ☆は「デジ活」中山間地域登録エリア

モデル事業地区だけが農村RMOではない！組織ではなく実践がポイント！

61-5 農山漁村振興交付金（中山間地農業推進対策）のうち 農村型地域運営組織（農村RMO）形成推進事業

【令和6年度予算概算決定額 8,389（9,070）百万円の内数】

<対策のポイント>

中山間地域等において、複数の集落の機能を補完する農村RMOの形成を推進するため、むらづくり協議会等が行う実証事業やデジタル技術の導入・定着を推進する取組のほか、協議会の伴走者となる中間支援組織の育成等の取組を支援します。

<事業目標>

農用地保全に取り組む地域運営組織（100地区 [令和8年度まで]）

<事業の内容>

1. 農村RMOモデル形成支援

むらづくり協議会等による地域の話合いを通じた農用地保全、地域資源活用、生活支援に係る将来ビジョン策定、ビジョンに基づく調査、計画作成、実証事業等の取組、デジタル技術の導入・定着を推進する取組を支援します。

【事業期間：上限3年間、交付率：定額（上限3,000万円（1,000万円（年基準額）×事業年数））】

2. 農村RMO形成伴走支援

農村RMO形成を効率的に進めるため、中間支援組織の育成等を通じた都道府

<事業イメージ>



農村RMOとは...
 簡単に言えば、
 日本型直払の集落協定と
 集落の生産組織、自治組織、福祉組織な
 どを「一体的に」運営すること
 =ヒト・モノ・知恵・財源の融通
 ただし！大事なのは組織形態や実施事業
 よりも地域でしっかり話し合い
 「将来ビジョン」を描き実現すること

農村RMOモデル形成支援

農村RMO形成伴走支援

【都道府県単位の支援】
 中間支援組織による人材育成研修

【全国単位の支援】
 農村RMO研究会による情報・知見の蓄積・共有、研修等の支援

【お問い合わせ先】 農村振興局地域振興課 (03-3501-8359)

複数の集落による集落協定や農業法人など農業者を母体とした組織と、自治会、社会福祉協議会など多様な地域の関係者とが連携して協議会を設立し、農村RMOの活動の基本となる農用地等の保全、地域資源の活用、農山漁村の生活支援に係る将来ビジョンを策定し、これに基づき各事業を実施。

農村RMO※

協議機能 協議会（総会）

(小学校区程度のエリア)

集落協定
集落営農
農業法人
など

地域の存続に向けて普段から組織的に活動を行っている農業者を母体とした組織を形成



自治会・町内会
婦人会・PTA
社会福祉協議会
など

地域の将来ビジョン

実行機能 事業の実施

集落協定
多面・中山間

農用地の保全



農地周辺等の草刈り作業

↓

資源管理

生産組合・集落営農
女性G・農泊G

地域資源の活用



直売所を核とした域内経済循環

↓

生産補完
農業振興

町内会
見守り・移送

生活支援

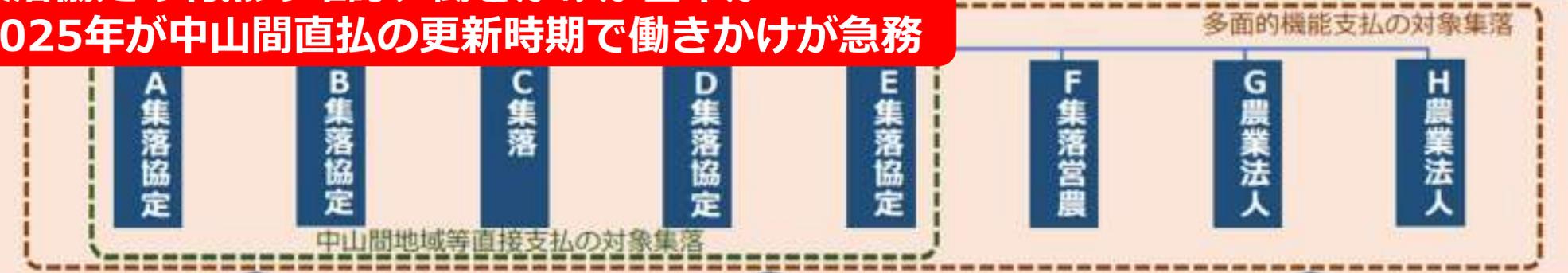


集荷作業と併せた買い物支援

↓

生活扶助

集落協定の有無の確認、働きかけが基本か
2025年が中山間直払の更新時期で働きかけが急務



中山間地域等直接支払、多面的機能支払による共同活動、組織的活動の下地

15 ※ 地域運営組織が展開する活動は多種多様であり、法人格を持たない任意団体（自治会・町内会、自治会等の連合組織など）をはじめ、NPO法人、認可地縁団体、一般社団法人、株式会社、合同会社など多様な法人制度を活用。

一般RMOの弱点 = 補助金頼みとやらされ感を農村RMOで乗り越える
農村RMOには元々やってきた+稼ぐ活動があるbutその分無償の新規活動には抵抗感

直払を集落営農経営に組み込み農外事業拡大

出雲市佐田地区窪田の農村RMO

集落営農の法人化B(80戸30ha、2003年)

→市委託外出支援(1人月2回まで)と配食サービス(毎日朝夕)=通年雇用の柱
→除雪・機械整備、さらに育苗+育苗ハウス利用、事務受託、林業にも
+畦畔除草に羊を導入→癒しと毛織物+直払でのインターン受入



昭和の旧村(窪田)単位で多面支払の組織を一体化(170ha)=年2000万円
→労役負担だけでなく未来への投資が可能に (例)畦畔防草加工

2階建てのうえで

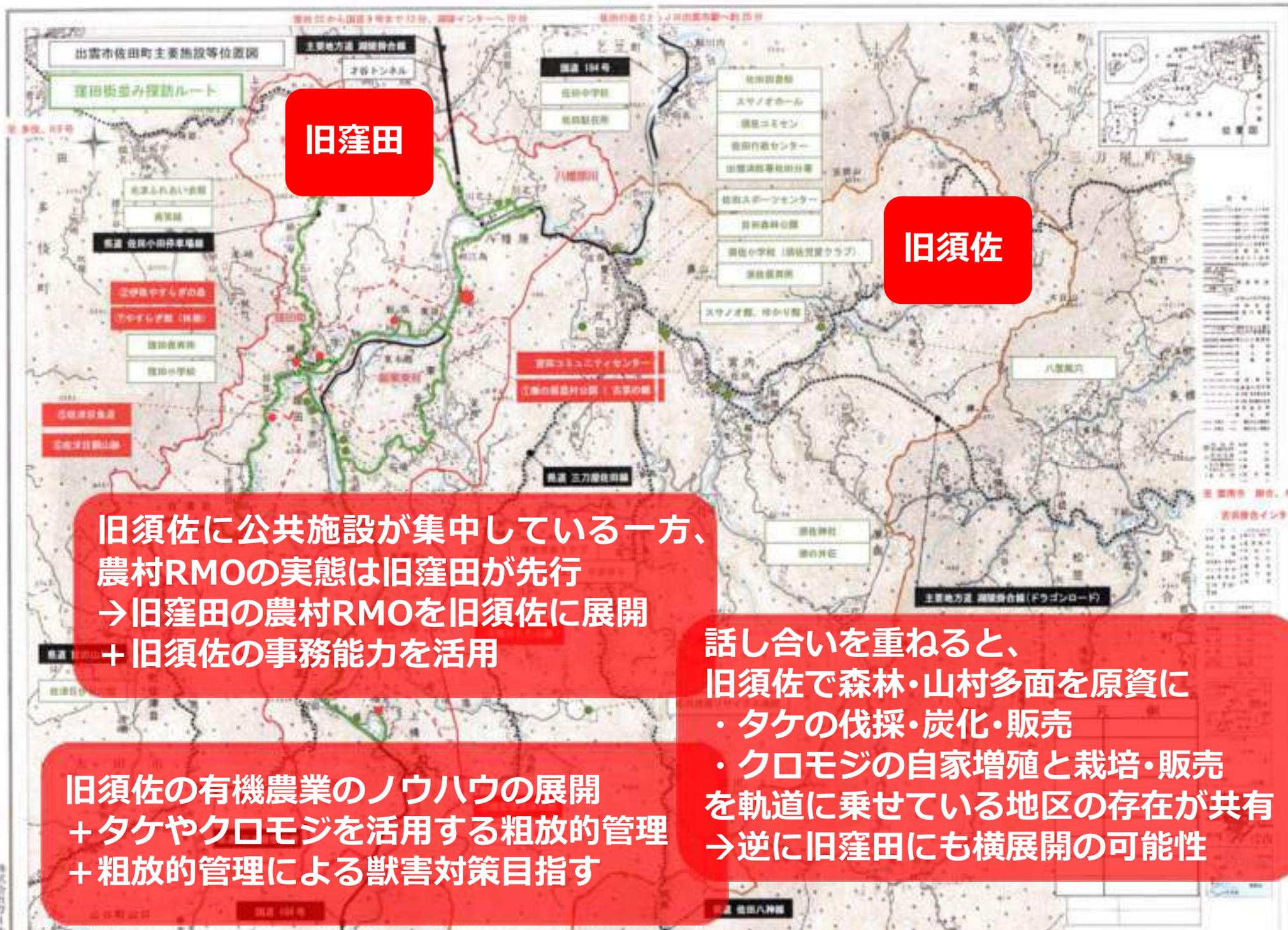
A法人=有機による農の付加価値化
B法人=農外事業による経営安定化

集落営農の法人化A(60戸30ha、1998年)

→中山間直払を財源に新規就農者の受け入れ

→エコファーマー、GAP、有機JAS認証による付加価値化

窪田を含む佐田地区での農村RMO



旧窪田

旧須佐

旧須佐に公共施設が集中している一方、農村RMOの実態は旧窪田が先行
→旧窪田の農村RMOを旧須佐に展開
+旧須佐の事務能力を活用

旧須佐の有機農業のノウハウの展開
+タケやクロモジを活用する粗放的管理
+粗放的管理による獣害対策目指す

話し合いを重ねると、旧須佐で森林・山村多面を原資に
・タケの伐採・炭化・販売
・クロモジの自家増殖と栽培・販売
を軌道に乗せている地区の存在が共有
→逆に旧窪田にも横展開の可能性

集落営農の3階建てと 農村RMO

集落支援

3階建て方式

共同販売・共同購入
共同作付計画、スタッフ・機材の融通 など

集落営農

農外事業

農村RMO

除雪・移送・配食等

環直の組合せ

環境保全の実効性を確保する集落営農

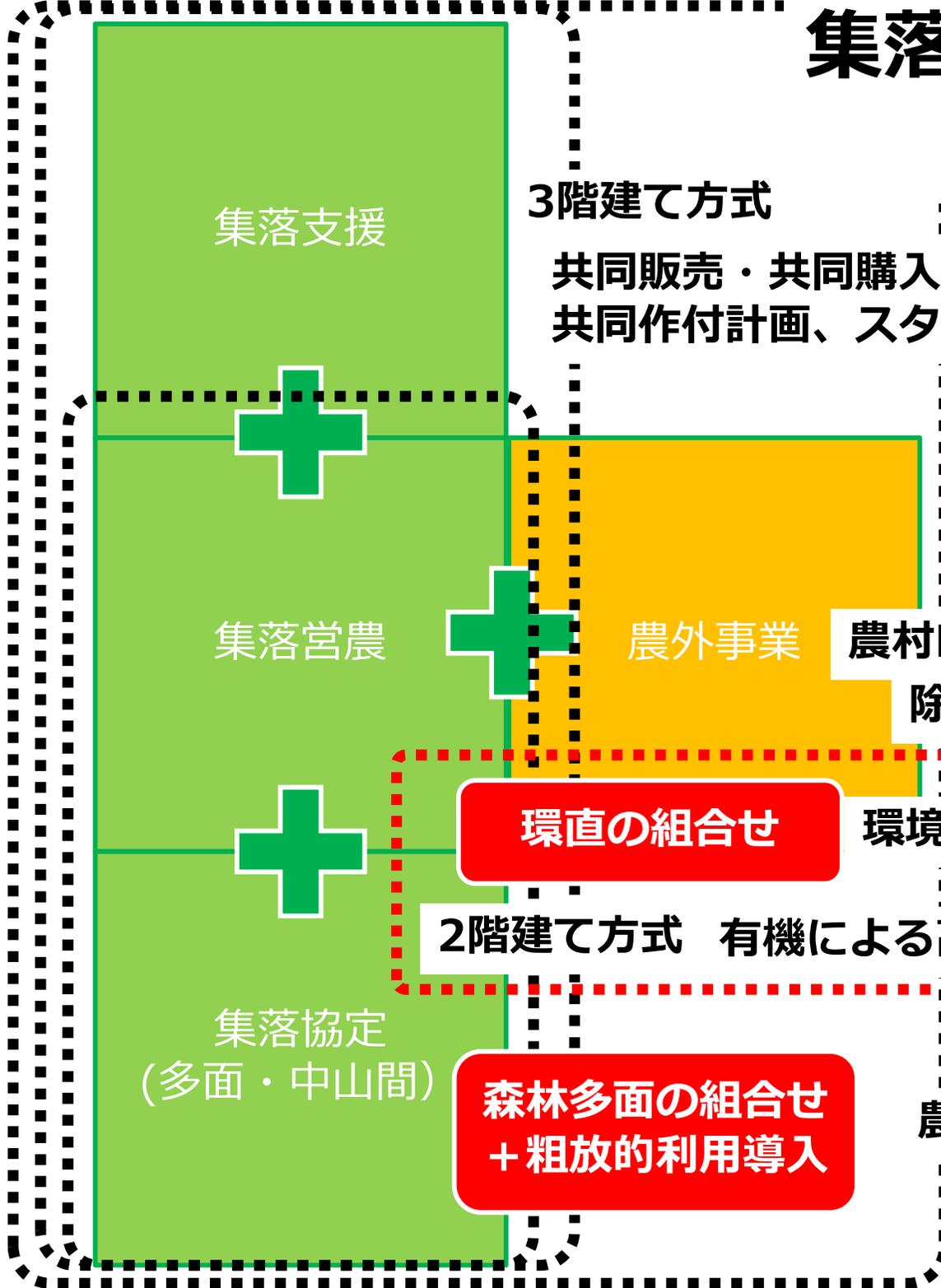
2階建て方式 有機による高収益化

行政や消費者・取引先
からも支援

集落協定
(多面・中山間)

森林多面の組合せ
+ 粗放的利用導入

農地・林地の境を超える



地域づくりのプロセスの描き方

踊り場に来たとき、現場から
アイデアが次々出るようにしたい

気候変動やグローバル化
に順応する踊り場

理想 + 寄り添い

主語は住民 → 住民も行政も

ありたい
姿探し

将来像
目標共有

試行錯誤

小さな
成功体験

仲間づくり
team building

組織的
事業展開

かけた時間は
費用ではなく資本

中越復興では
3-5年で分岐点

地域力
地域の盛り上がり

危機感 + 補助金

課題探し

補助事業

形式的
組織化

補助切れ

事業疲れ

目標喪失

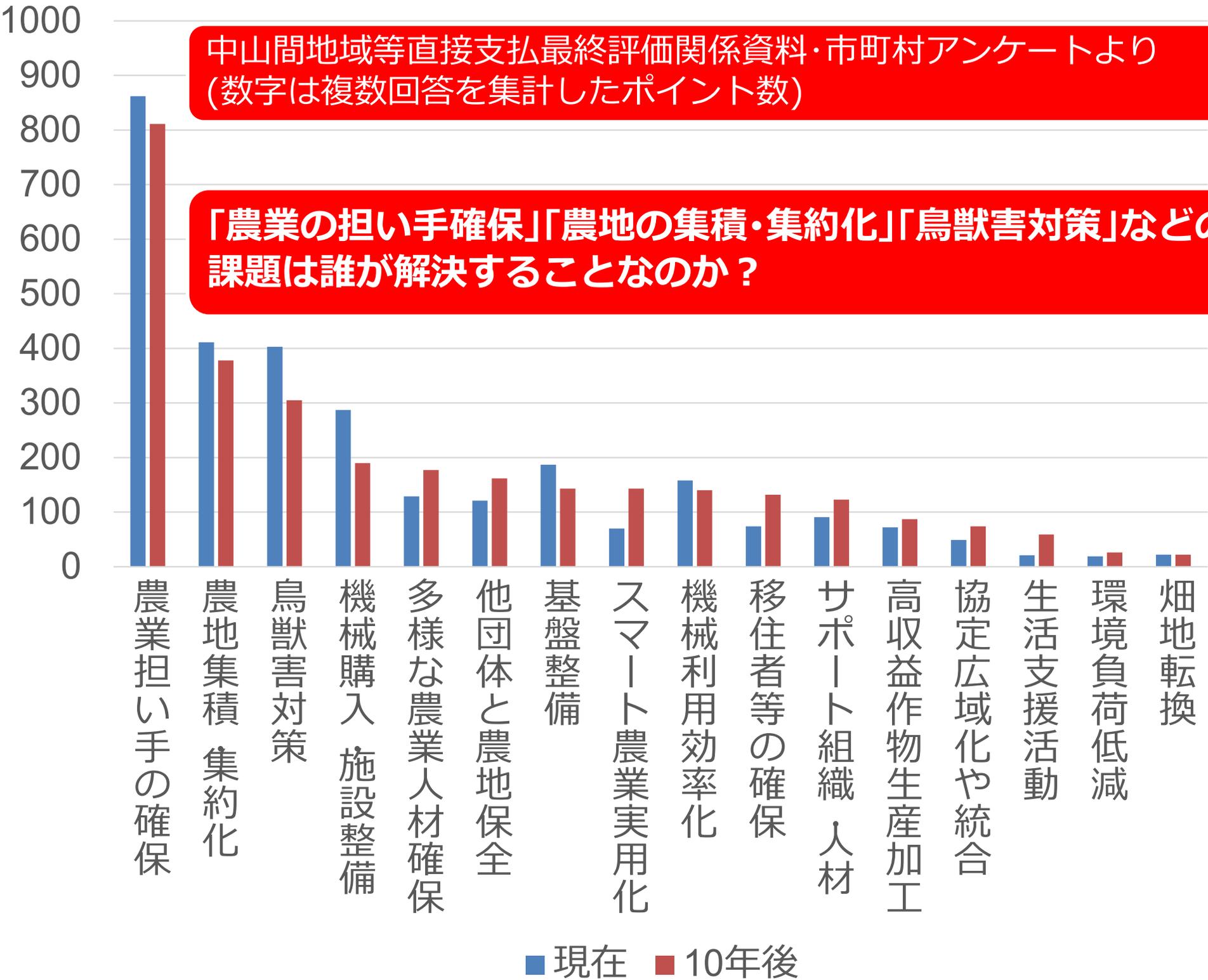
倍の諦め

時間

0

中山間地域等直接支払最終評価関係資料・市町村アンケートより
(数字は複数回答を集計したポイント数)

「農業の担い手確保」「農地の集積・集約化」「鳥獣害対策」などの
課題は誰が解決することなのか？





①隣の他者の夢=本音を聞き出す
DIALOGUE on DREAM



②他者の夢を共有しみんなの夢を決める
DESTINE on DREAM (シール投票)



④身の回りの状況を夢の実現にいかすための物語=5W1Hをつくる
DESIGN for DESTINED DREAM



③身の回りがどうなってるか確かめる
(農地管理状況など)DISCOVER



①隣の他者の夢=本音を聞き出す
DIALOGUE on DREAM

②他者の夢を共有しみんなの夢を決める
DESTINE on DREAM (シール投票)



課題は誰かが解決してくれること。夢は自分が目指すもの。
個人の夢を話し合いでみんなの夢にできれば、自分事が地域事になる。



まず似顔絵を描き合うことで気分がほぐれる→左脳でなく右脳が働くとの声
ニックネームを聞き合うことで肩書ではなく家族のような関係に
→行政への要望・苦情を言いに来た方が「しょうちゃん」「お父さん」になる



経験上、どんな方でも「こうありたい」という声は必ずある
特に不満・不安ばかりという状況ならば、まずは不満・不安を聞いてもいい
→できれば核心的な不満・不安にまず応えられれば動き出す
(例)うちのムラは電波が入らないから若い人がいやがる→電波を立てる
うちのムラは下水が通っていないから→格安の合併浄化槽、規制を見直す

夢語りのシートは地域の財産になる



宇佐市深見地区での試み
ぶどうの6次化「百笑一喜」
グリーンツーリズムで著名。

でも互いの夢を語り合うのは
初めてだった。。

3年後訪ねてみると...
公民館に貼り出され
思わぬところから実現も。
新たな仲間の夢も。

1 + 1 > 2 = グループダイナミクス





畦の草刈が大変だ



畦の草刈が続けられるようにしよう



- ・ 神刈を入れる・草が生えにくい植栽
- ・ 農家でない人や地域外の人も楽しく参加する枠組みをつくる



どこが、どれくらい大変なのか確かめる

黒石市大川原地区1655a



田植機・収穫機、草刈機
などの共同利用組合



車で10分ほど離れた温泉旅館から
そばの作付けを依頼



そば用の播種機や製粉機も
共同利用組合で導入



集落で年2回の意見交換の場が
30-40代の住民の意見から
有機栽培に取り組むことに



中山間直払の棚田地域加算で
ドローンや防草ロボ、水位センサー
なども導入



そばから有機JAS米へ翌作から転換
そばの有機JAS認証にもチャレンジ



米が安くてやっていけない
そばのままで交付金がもらえない



農産物や農地でもっと稼げるように



- ・ 特裁や有機JASに挑戦する
- ・ 地域外の人たちを招いて買ってもらう
- ・ 貸農園を開く



どこで何ができて、どこがうまいのか
どこが大変なのか

平内町全域



若手農家有志で集まり
何気ない情報交換を年3回



転作&趣味で栽培している枝豆を
在来作物の「毛豆」に転換



晩播のため枝豆収穫期が米とかぶるが
学生の手伝いと急速冷凍導入



枝豆として仲間の農家レストランや
町野夏祭りで販売



本業のコメでの共同として
国天然記念物指定の白鳥(飛来地)を
いかした米づくりへ



新たな制度=みどり認定を共同で受け
給食への採用や環直の需給を目指す



獣害で困り果てている



ケモノに負けないムラでありたい



・ 柵の整備・ジビエの活用・草刈、枝落
としての励行で干渉地帯を・獣とつきあう
農:竹、彼岸花、山菜、しし米



どこでどんな獣害がひどいのか
獣害にやられないものはないのか

佐井村川目地区38a



何を作ってもサルに食われる
サルに負けないを目標に話し合いを



農家さんどうしの情報交換の場で
サルに食われにくいものが見つかる



農家さんたちが出荷する直売所で
つくりたいものの勉強会を重ねる



隣の地区や自治体からの通い農の人
4名が農地を引き受ける
& 栽培指導の学びの場ができる



収穫祭 野菜を使った地元の食
& 特産の魚を使ったさつま揚げ



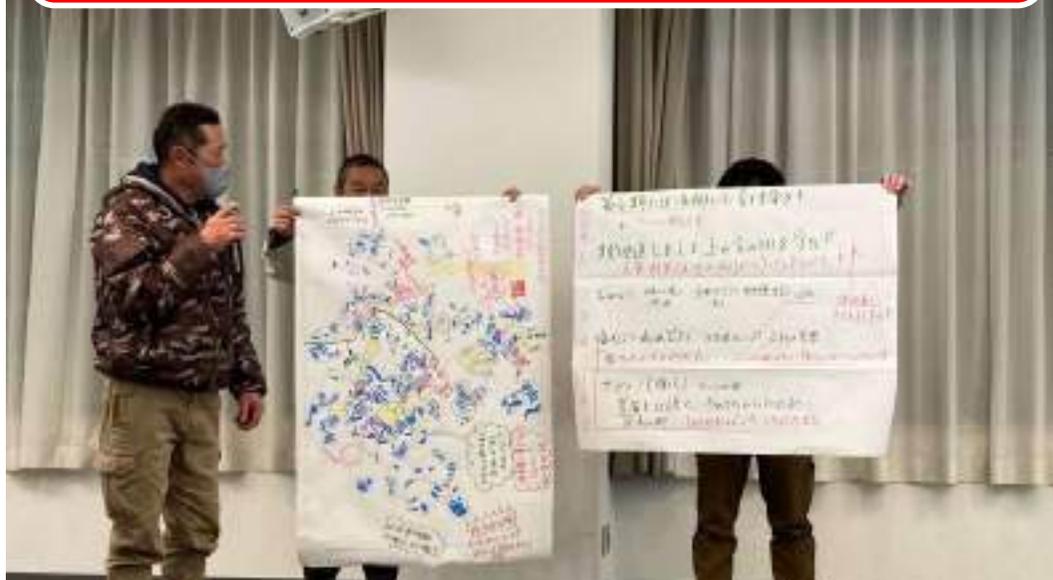
80年代に賑わった山菜加工センターが
新たな衛生基準に集団対応する受皿に



このままではどんどん耕作放棄が増える



農地を荒らさずに未来に受け継ぎたい



- ・ 直払の事務負担の分担・軽減
- ・ 草/獣との付き合い方
- ・ 非農家、地域外の人たちとの楽しみ方



どの農地、誰の所有地で荒れそうか
草刈なのか、獣害なのか、担い手なのか

出雲市須佐地区488a



斜面が竹で覆われる
森林組合職員が退職し集落の世話を



空気清浄機メーカーからの依頼で
炭焼き窯の跡をいかして竹炭に



炭だけでなくチップーでパウダー化
発酵させて田にすき込む



田も維持できない
別のメーカーに依頼され
精油用のクロモジを田に植える



山から選抜したクロモジを育て
空き育苗ハウスで乾燥して出荷



ノウハウを地区全体で共有する場が
& 地域で加工までできるように
畦の防草加工も直払で行う話し合いに



**鶴岡市温海地区
山からのワラビを選抜して
ポット苗で増やし放棄田へ**

**ワラビはイネ科草本より強く
草刈の手間が要らない**

**観光ワラビ園だけでなく
端境期市場出荷で高収益に**

クロモジも放棄田で栽培可能

**出雲市佐田地区でも
山で取った実生の苗を選抜**

育苗ハウスで干して出荷

**南会津町でもアロマオイルに
クロモジ枝葉1kg→5ml**



月山筍を休耕田で栽培。出身者や都市住民との貴重な絆へ



山形県鶴岡市旧朝日村大網地区



約100世帯、400人の集落
 →東京大網会が毎年約50人学芸会に
 →'16.3小学校廃校 大網会訪問は継続



「小さな拠点」づくり始動

☑大網会を基礎に「物産会員」制度導入

☑廃校にゲストハウス機能を導入



物産の核の生産がおぼつかない

耕作放棄地の再開に「会員」参加



他出者以外から「会員」を募る
 ツアー・プログラムを連続開催



免許返納しても安心して暮らしたい
隣り町に透析に通いたい



住み慣れた家で暮らせるように



・今あるバスを混乗に：子どもとお年寄り、人と荷物を一体的に
・移動販売の帰り荷で農産物を出荷



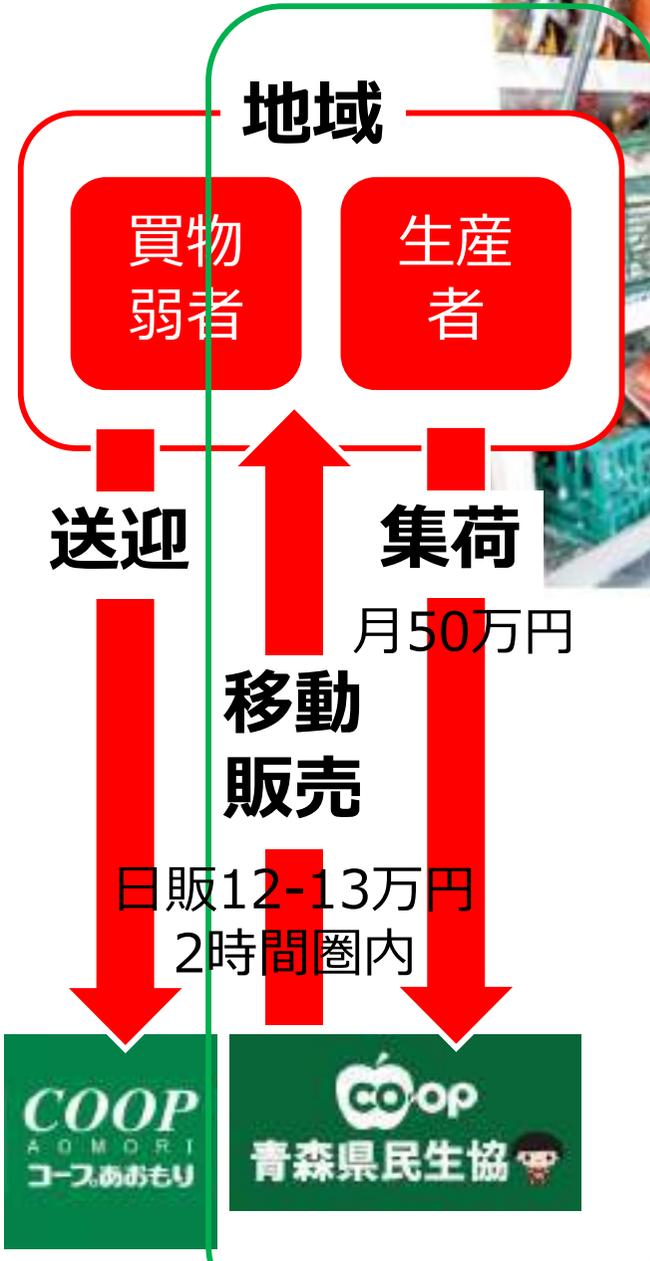
どこでどんなニーズがあるのか
どのルートならば行けそうか

弱者扱いしない！地域づくり



横浜町など 集いの場でのお買物

直売所とテレビ電話を結ぶ。女性にとって買物が一番の脳トレ。



横浜町・中泊町など 産直集荷・配達

全国の産直で、生産者の高齢化対応で、集荷を強化。配達などを合わせて行い運営費負担をできるだけ軽く。特に集いの場を集荷・配達の場にするのが効果的。

集いの場での餅づくり（佐井村）、お茶っこ費用をメルカリで稼ぐ（三沢市）

**WSに若い世代、
××が来てくれない**

清流に人情燃える里づくり

20/6/24 23人多世代(男性のみ)WS:若手=消防団に召集



実現して継続

- ②流雪溝整備
- ③カメムシ /クマヘビハチ駆除
- ④花壇整備
- ⑤街灯整備
- ①⑦集落案内板整備
- ⑫火流しの保存

もう限界

やれるだけでいいんだ

実現したが中絶

- ⑩加工品開発・販売
- ⑨圃場・農道整備
- ⑮ふれあい農園
- ⑯トイレ整備
- ⑬老人の憩いの場=温泉
- ⑬子どもの遊び場=廃校
- ⑱せせらぎ整備

村の将来=少子化対策につながるようにしたい

雪とか田んぼとかあるものを生かしたらどうか

実現せず

- ①信号設置
- ⑥くうかん鳥
- ⑦生活道路整備
- ⑧温泉の活用
- ⑫保養所整備
- ⑭露天風呂
- ⑳つり橋整備
- ⑲欠→次世代への贈り物

好きなようにやればいいんだ

**××に来させるのではなく、
××が集まっている場に行く
集まれるような場をつくる
地域に根ざした食やゲームが鍵**

**ばらばらに声を集めて
事務局が整理するより
やはりみなが集まってすり合わせた方がよい**

30-40代も「耕作者」としてメンバーに 市内の有機農業法人(40代)

指導

販売

市内の観光業者(地域内そば屋)

若者・よそ者に関く

関係のないようなWSでも耳にはさめば自ずと関わりが

棚田協議会

作付計画

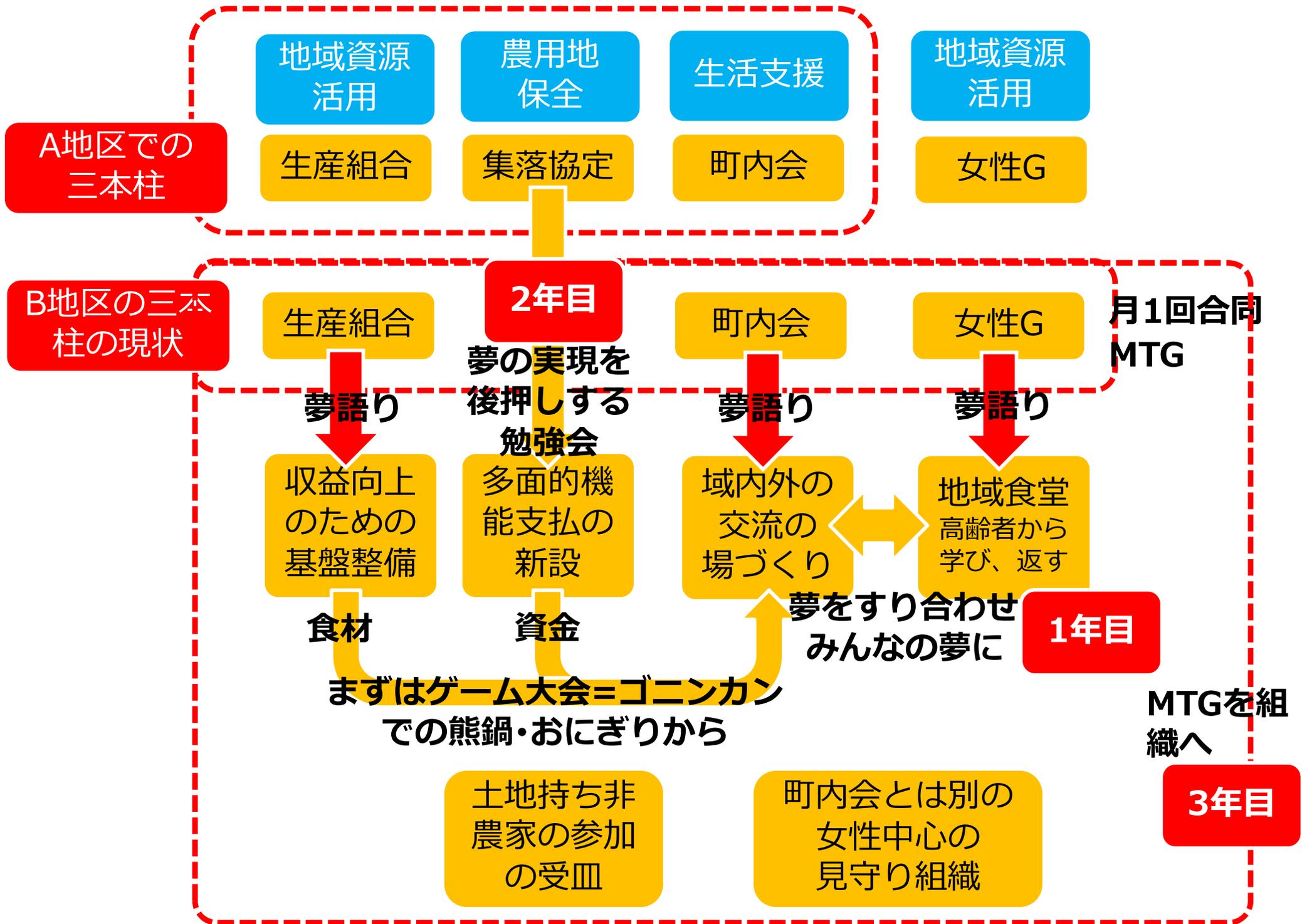
デマンドタクシー

販売



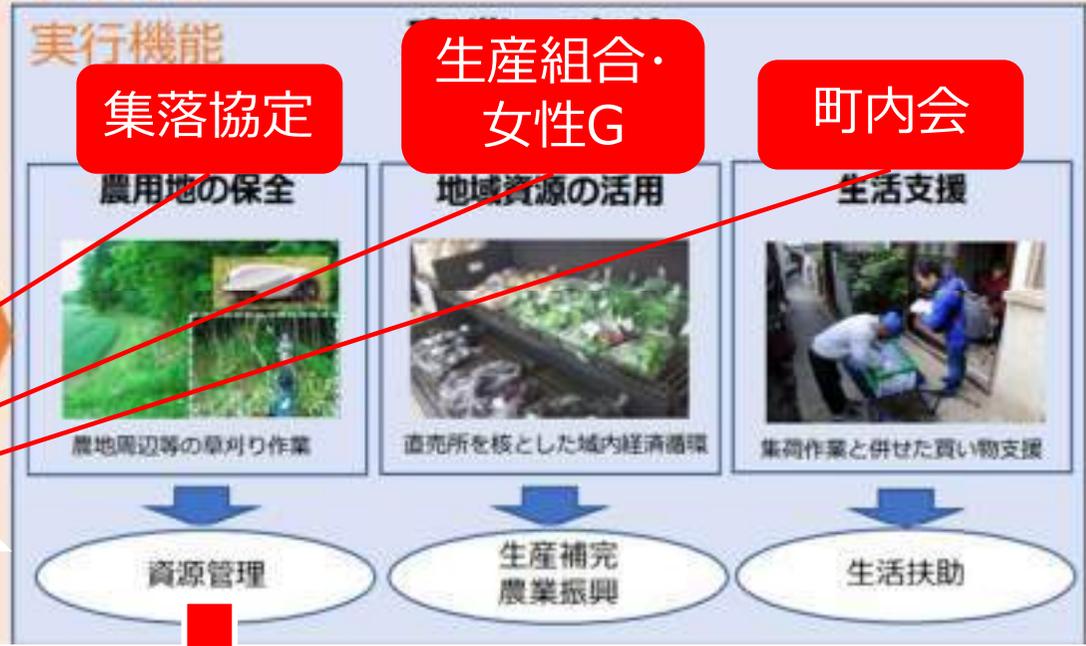
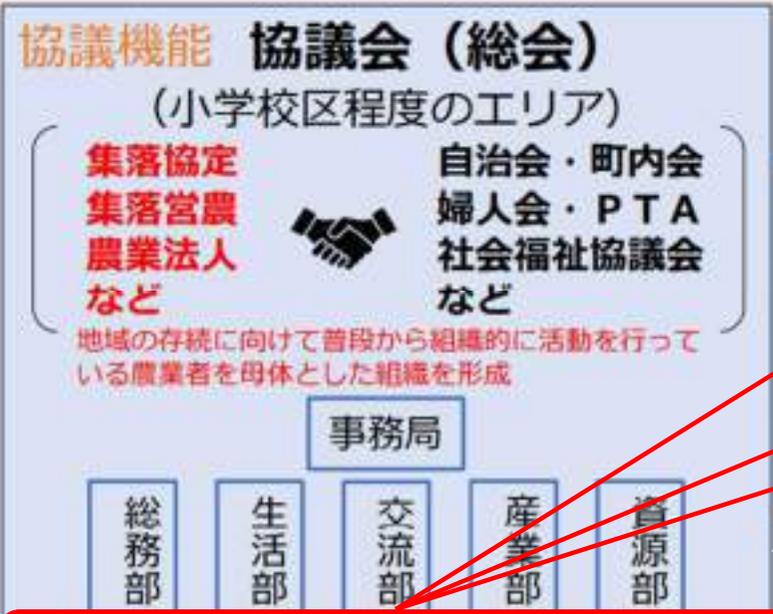
一体運営

ローン貸付



組織や事業ありきでなくありたい姿から

農村RMO※



地域の未来を
つなぐ

部会制をとるより組織間の連携
資金・人材の融通、情報共有

新たな組織化で大事なものは
若手や女性、域外パートナーの
意思決定への参加

重要なのは、組織や事業のかたちよりも
地域を継承したいというありたい姿

スマート農機 デマンドタクシー

日本型直払を活用した夢の実現

若い世代、子育て世代のサポート

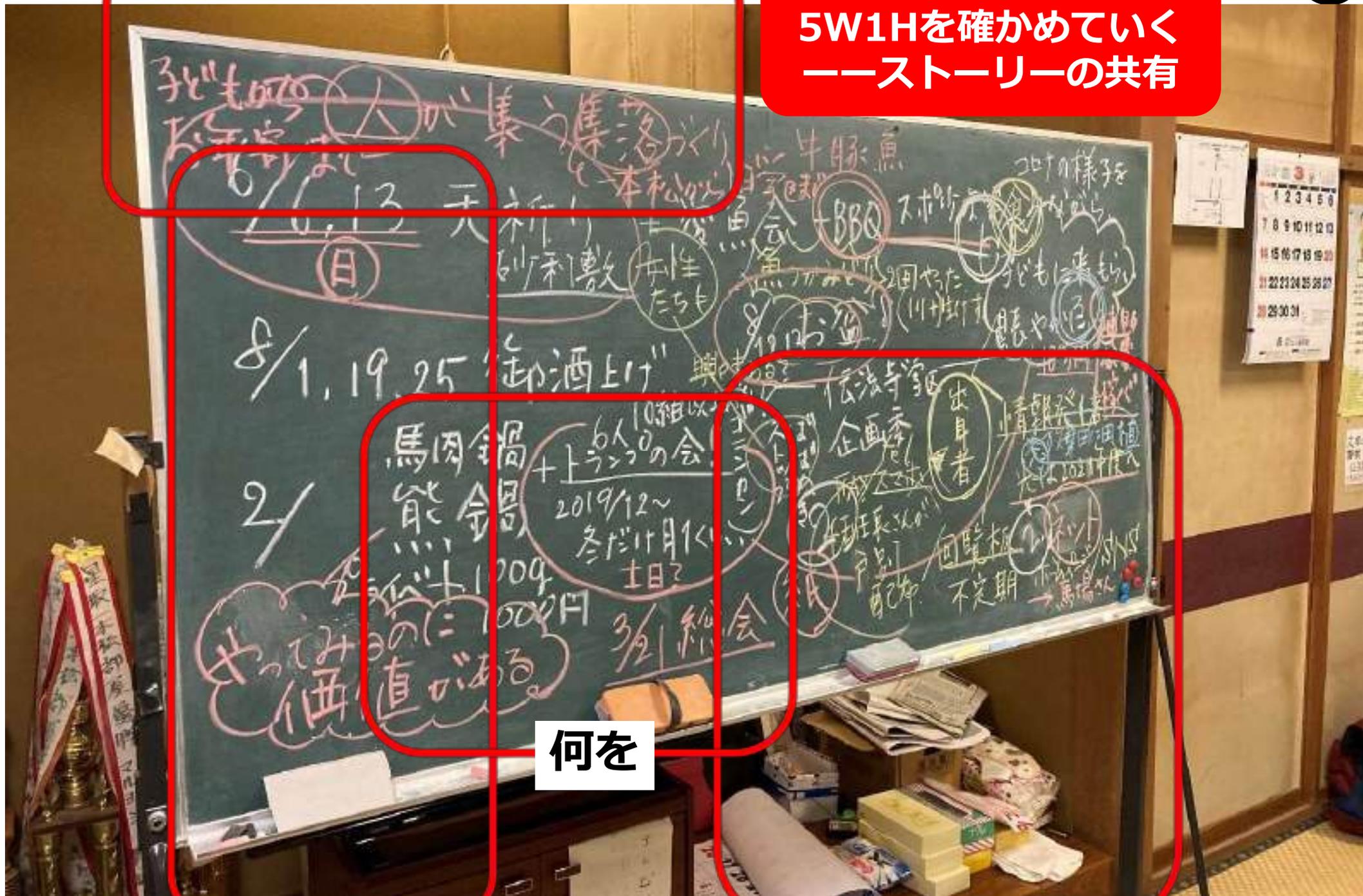
そのための地域づくりの夢を共有する場づくり

**夢を語れるのか？
不満や不安の裏返しが夢になる**

**夢を語っていて暴走しないか？
5W1Hを確認していくと
自ずと落ち着くところに落ち着く**

なんのために

何かを決めるには
5W1Hを確かめていく
——ストーリーの共有

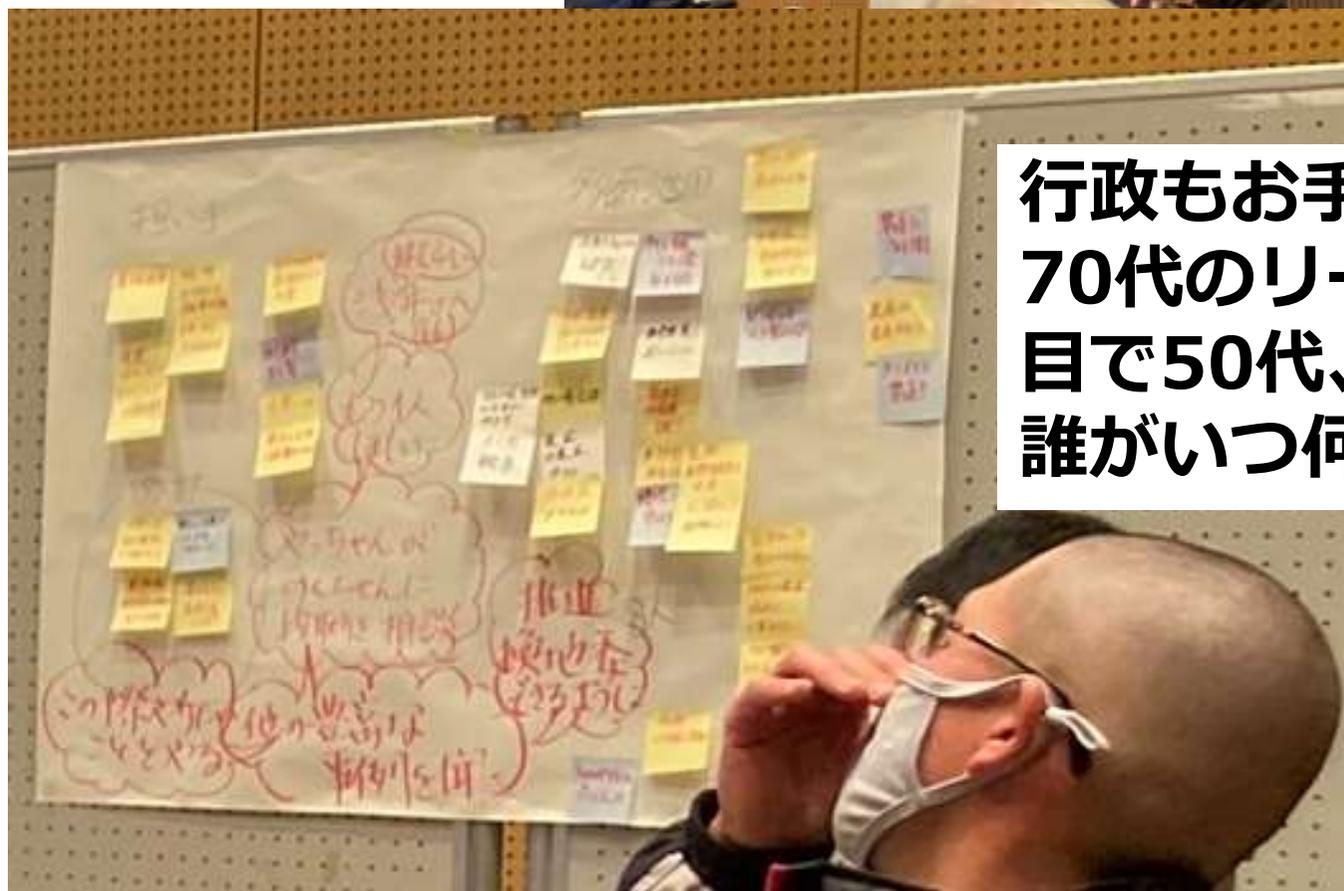


何を

いつ

誰が、誰に、どうやって

機械導入やインフラ整備の具体策まで掘り下げていた集落が、まずは地域の人を意識に着目



**行政もお手上げだった集落。
70代のリーダーが話し合い3回
目で50代、60代に声かけ。
誰がいつ何を始めるかが具体化。**

原発災害からの復興を願った「懐かしい未来づくり」

度重なる地震で打ち捨てられた石材加工の技術をいかした窯の再生

今度はいつイベントあるんだか？

一人暮らしのお年寄りを訪ね誕生日を祝う子どもたち

こんなにうれしい誕生日は久しぶり

史料館として再生した旧小学校に、古写真や文集を持ち寄る

いつ来ても誰かに出逢える史料館
LINEも駆使した同窓会つながり
子どものためのぞろ目のイベント
→low priceなのだがpricelessな
県を超えたふるさとづくりへ



ありたい姿から始める地域づくりを支援する



農政が食料安保を軸に大転換しようとしている

→振り回されないためにも、現場のありたい姿を見定め、さまざまな施策を現場から積極的に横断し総合化していきたい



危機感をてこにした課題解決型の事業は、ありたい姿が共有されていないと、行き詰まりやすい

ありたい姿から始めれば、壁にぶつかっても、現場から代案が次々とする

→そのためにも、課題＝解決策(事業)ありきではなく実のある話し合いを重ねる
――ちょっとした発言も拾われ、カタチになる繰り返し 「言ってみるもんだな」



話し合いでは「Yes, but＝そうですよね！ほかに何かお気づきのことは？」とまずは現場の声を尊重し、そのうえで別な可能性もつねに目配りしたい

→関心と敬意を持って臨んでいるかはすぐに伝わる。

現場の人たちも情報のチャンネルが豊かなので支援者側も学びを深めたい。

→知らないことが罪ではなく、それはどういうことですか？と

関心を込めた「更問い」ができるようにしておきたい。



集まってもらう、のではなく、集まりに出向く、集まりをしつらえる

→集まりの鍵の1つは、地域に根ざした食やゲームの場

ただし本当に意味のある場だと思ってもらえれば、必ず集う、集いつづける

→次に来てもらう、誘い合ってきてもらうために1回1回が勝負

どれだけ意見が言えたか、「聞かれたか」の手応え次第

お隣の方のニック ネーム

①お隣の方(担当)地域の
一押しの味は？食は？

②5年後のお隣の方(担当)
地域はこうあってほしい

③お隣の方の地域の
こうありたい姿の
最大の壁は？



自分たちで1筆ごと確認しよう

耕作者の年齢別

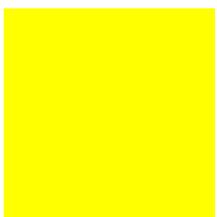
作目別



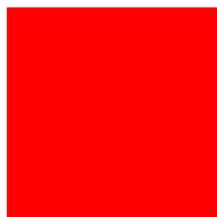
60代以下



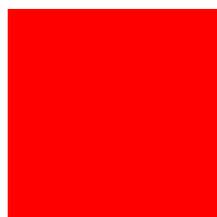
水田



70代



樹園地



80代以上



畑(野菜)



耕作放棄



耕作放棄

- ちょっとした気づきを出し合おう
 - どのような人が、どのようなものが多い／少ない
 - どうしてこんなものが？あれはどうなってる？
- 若手が多い？少ない？なぜでしょうか？
- 小学校は安泰でしょうか？
- 地図記号を1つ1つ確認してみましよう？
 などなど
- 空き家はありませんか？
- なぜ、そうなっているのか？
考えを寄せ合いましよう。

- **農地管理：平場の圃場整備地による集約と受入
傾斜地をどうしていくか**
- **果樹のブランド力：温暖化や豪雨多発で大丈夫？
水稻の機械更新、水稻・野菜の有機転換は？**
- **UIターンはどうやってできた？
都市農村交流や関係人口は？**
- **空き家はどうする？**
- **除雪は大丈夫？**
- **お年寄りの足や子どもたちの足は大丈夫そう？**

10年後の理想像を描こう

どこがどうなっていたらよいか

傾斜地にも新規就農

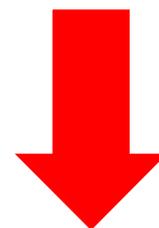
空き家のマッチング



間口除雪は
共同で

家		2018年7月現在
黒	90代	
赤	80代	
黄	70代	
青	60代	
緑	59歳以下	
茶	空き家	

地図の上におおまかな5年後の理想像を書こう



数が多ければ投票で絞ろう

小中学校で農の教育

理想像を実現するストーリーをつくろう

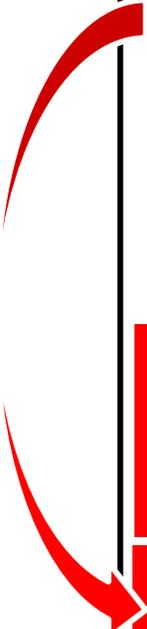
いつまでに 誰が何をする

5年後 RMO が 空き家マツチング

3年後 親と学校が 農の教育

2年後 有志と市が 空き家片付け・改修

1年後 町内会とweb得意な住民が 空き家現況・意向調査



理想像へのストーリーに名前を付けよう

雪と農を満喫できる子育てならここ!

空き家イキキプロジェクト

5年後

RMOが

空き家マッチング

子育て就農者の
住まい応援

3つのテーマと横つなぎ
安定的な運営財源

3年後

親と
学校が

農の教育

RMO設立

2年後

有志
と市が

空き家片付け・改修

農ある子育て
プロジェクト

1年後

町内会
とweb
得意な
住民

空き家現況・
意向調査